

令和6年度の学校評価
ア 自己評価結果等

<p>前年度の重点目標</p>	<p>(1) スクールミッション及びスクール・ポリシーを基軸にすべての教育活動への反映 (2) ビジネス社会を意識した規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (3) 「主体的・対話的で深い学び」の安定した実現に向けて飽くなき授業改善と評価の確立 (4) 一人一台タブレットを中心としたICT教育の持続的な推進 (5) 全日制単位制キャリアビジネス科2年目における礎づくりと継続的な検討 (6) 旧中川商業生徒と単位制以降入学生との共存と融合 (7) 定時退校日の有効活用と平素業務の効率化に向けた業務改善</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 式典や管轄業務について計画的に企画・立案した上で、安全かつ円滑に遂行できるようにする。 PTA役員、委員との連携を図りながら、主体的な特色あるPTA活動になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各組織と連絡・調整を図り、共通認識のもとで、式典や管轄業務の遂行が円滑に運営できるようにする PTA役員、委員との連携を進め、PTA役員・委員がPTA活動をしやすいようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌と学年に確認し連携を図りながら、行事を進めることができた。 PTA役員との連携をして、PTA活動を進めた。来年度も現状に合ったPTA活動を進めていきたい。
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中川青和高校での円滑なカリキュラムの運用と課題改善 スクールエンジンの運用方法の確立 観点別評価の定着と評価方法の課題改善 生徒の読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次以降の教育課程に関する事項の準備 スクールエンジンによる成績処理、指導要録の作成、調査書の作成方法を確立させながら改善を図る 観点別評価用の成績処理関係の書式の作成と改善 図書委員会(生徒)による図書館だよりの定期的発行と生徒の主体的な活動から内容の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会や学年団と調整しながら計画的に3年次以降の準備を進めることができた。3年次以降は生徒の履修・修得状況に応じて科目選択の変更等が必要となるため注意をして次年度準備を続けていきたい。 スクールエンジンの更新に対応したマニュアルを作成し、多くの場面で補助することができた。 観点別評価ではあいちラーニング推進事業を活用しながら生徒の主体的な活動を取り入れた授業展開を研究することができた。本校生徒がより学びを深められるようにするために試行錯誤が必要である。 生徒が委員会活動の一環として図書館だよりの一部を主体的に作成できるように働きかけることができた。
<p>生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立 令和5年度以降の入学生における生徒指導規定全般の確認 委員会活動の活性化 支援が必要と思われる生徒への他分掌と協力した援助・指導 外国にルーツをもつ生徒に対する異文化理解も含めた指導体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な遅刻に対する指導の実施と常習的な遅刻者に対しての個に応じた効果的な指導法の検討 ドレスコードの目的の周知と学校安全面からのネクストラップ着用の定着化 「生活委員会」の活動の活性化を図る 学年、相談部、保健部と情報を共有し、連携した指導の実施 関係部署と情報を共有するとともに、個別のヒアリング等を実施し、相互理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導の対象となる遅刻の集計と遅刻指導の方法を変更したことにより、多くの生徒に対して効果が感じられたが、一部の常習的に遅刻をする生徒が遅刻数を増加させている現状に変化はなかった。画一的な遅指導ではなく、事前の声掛けや個に応じた面談的な指導を実施し多少の効果の見られた生徒はあったものの、常習的な生徒の多くが精神的な面での不登校傾向やヤングケアラー等家庭の状況に起因する問題を抱えており、効果的な指導が難しい状態である。 ドレスコードによりわかりやすく注釈を付け、ビジネススタイルの意義を周知できるようにした。学年の協力も得てかなり改善された。また、ストラップについても学年の協力を得て校内での着用を促進し、昨年度よりは着用している生徒が増加した。 交通安全指導や地域と連携した防犯キャンペーン、児童虐待防止啓発キャンペーンなどに参加したが、校内的に活発な活動はできなかった。 各学年会により生徒状況の情報を共有し、指導にあたることができた。特に、児相案件や精神的に不安定な生徒に対する指導に関しては、相談部や保健部と情報共有し、連携を取ることができた。 外国にルーツをもつ生徒が、宗教・文化的な理由により、校則に一致しない部分がある場合の申告が今年度もなかったが、引き続き継続課題としていきたい。
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の進路実現に向けた進路指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択の充実 基礎学力の向上 インターンシップの活用 コミュニケーション能力・身だしなみを含むマナーの向上 他分掌との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する生徒の進路希望に対して、複数回の面談の機会を設けるなど生徒の対応にあたることができた。 朝学習、総合実践の授業を活用したが、生徒の学力の定着率はいま一つであり、さらに工夫が必要と思われる。 キャリアデザインの授業を通じて、インターンシップ、上級学校研究などが実施され進路意識醸成に効果的であった。 講話や面談等をとおして、コミュニケーションの大切さを教えることができた。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健美化部	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康な生徒の育成 緊急時に備える体制の確立 美化意識の向上及び清掃活動の充実とゴミの減量化 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を随時開催し、各クラスでの問題点や改善点などの情報交換を充実させる 救急法講習会を充実させ、緊急時に備える 環境美化意識が高まるような方策を検討する。特に衛生設備を重点に環境整備や美化に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員、美化委員による自発的な活動を促すことができた。 必要に応じて、学年や他の分掌との連携を進めていくことができた。 教員向け救急法講習会を早い時期に実施することができた。
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が充実感や達成感を得るような生徒会行事の実施 部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事において生徒会執行部が中心となり、生徒自身が学校行事の運営にあたるよう、各種委員会を中心に組織を構成する 部活動を改編し、より生徒の積極的参加を促し活性化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 予定していたすべての行事を実施することができた。学校祭については、開催時期やブロック制など実施方法について今後検討する。 部活動の改編に向けて、活動環境、顧問配置、部登録制度の見直し等も含め検討する。
相談部	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学校生活が送れるように、必要な支援や精神的サポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 迅速で丁寧な対応を目指す 心理検査を実施し、思考特性や集団特性の把握 年2回程度精神健康調査を行うことで、各クラスの状態を把握といじめ等の早期発見を目指す 学校内外の連携のスムーズな実施 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室と連携することで、不調のある生徒について、身体面と心理面から早期把握やSC等への連携が強化できた。 心理検査により、生徒個人の思考特性及びクラスの間関係、クラス集団の傾向についての分析ができた。 精神健康アンケートから、SCと面談を勧める生徒を把握し、早期対応に繋げることができた。 児童相談所や子ども若者総合相談センター等との信頼関係が強化され、深い情報共有ができ、打ち合わせ等を校内で行うなど連携ができています。
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用タブレット適切な利用促進 ICT活用時の安全意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ルールブックを定着させ、積極的にタブレットの利用を行う 現職研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科・各分掌が授業や行事においてタブレットを積極的に活用した。 PC更改及び自動採点に関する研修が多くなった。来年度も継続させたい。
1年生	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性の育成 基本的な生活習慣の確立 基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をとおして、自立した大人として必要な人間性を高める 衣食住の生活リズムを整え、時間や約束を守らせる 朝学習や授業をとおして高校生として必要な基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学校生活をとおして、常に声掛けを行い、今何をすべきなのかを意識した生活を送ることができるようにした。 学年集会を定期的に行い、学校生活で守るべきルールの確認や、学校へ通う目的意識の再確認を行った。 朝学では、中学校レベルの復習し、基礎学力の定着を図った。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> 人間力を高める(社会人として求められる素質の育成) 基礎学力の定着、向上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活をとおして社会人として必要な人間性を高める 時間(遅刻、欠席、提出物)を意識させる 検定などに挑戦し、資格を取る意識をさせる 朝学習、授業を通じて、基礎学力の定着 長期休業を利用して、オープンキャンパスに参加させる 職業理解 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席の多い生徒に対して、各担任が声掛けをし、改善策をとともに考えた。 学年集会を定期的に行い、就職や進学を早いうちから意識させ、資格取得に力を入れた。 朝学では、新聞の切り抜きを読むことによって、新しい語彙を覚えるだけでなく、自分の感想を文章で表す練習をさせた。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の実現 社会に通じる人間力の育成 基礎学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導をとおして自己理解を深め、進路目標の実現に向けて粘り強く最後まで努力させる 学校内外の授業や活動をとおして社会に求められる人間力を育成 朝学習や授業をとおして社会人として必要な基礎学力を身に付けさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 中途半端な気持ちで就職を考えている生徒には早めに声掛けをし、よりよい選択ができるようにサポートした。 学年集会を定期的に行い、学校行事や日々の生活について生徒が振り返る時間を確保した。 朝学では、学期ごとにすべて取り組めた生徒には表彰するなど工夫した。しかし、全体の取組状況に応じて課題の内容を変えていくなどの見直しが必要となった。
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会や学年団と調整をしながら、3年次以降の教育課程への準備を進めることができた。必修科目の履修不認定者などへの次年度以降における対応など、いくつか課題も見つかっており、それぞれに対応を検討し対処していきたい。 「あいちラーニング推進事業」や「あいちリーディングスクール事業」への取組をとおして、生徒の主体的な活動を取り入れた授業展開について研究することができた。 生徒の日常着となるスーツの課題点について、ビジネススタイルの観点からドレスコードを見直し改善することができた。 1年次の「キャリアプラン」、2年次の「キャリアデザイン」では、次年度以降の科目選択、外部講演、インターンシップの実施・発表、上級学校研究、ビジネスコンクールへの参加、企業ミッションへの取組をとおして自己のキャリアを考える体制作りを努めた。 教員用のタブレット更新やデジタル採点の利用などに対して、教育情報部による研修を何度も実施し、円滑な導入につなげることができた。 SC、SSWとの連携により、外部機関とも連携を取ることができ、チームで対処が可能となった。 週休日に大会が連続する部活動の顧問や一部の分掌で勤務時間外での労働時間が長くなっており、次年度については、勤務時間外労働時間の削減に向けた取組を進めていきたい。 	

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体をとおして、基本的な生活習慣の確立・基礎学力向上に向けた取組を実施することができたか。 ・外部連携や地域活動をとおして、地域に信頼され必要とされる学校づくりを進めることができたか。 ・本校スクール・リーを基に教科・科目の視点から魅力ある授業実践ができるよう取り組めたか。 ・人権教育並びに情報モラル・いじめ防止等に関する具体的な取組について確実に実行することができたか。 ・定時退校日の有効活用を含め、時間を意識して業務を進める意識改革を推進できたか。
<p>学校関係者評価委員から出された主な意見、要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望の多様化への対応がとても難しいことが理解できた。 ・生徒指導の分掌は課題も多いところであり、更に例年より問題も多かったと聞き大変であったと思うが、親身に指導してもらえることは生徒にいつか伝わると思って頑張っていたきたい。 ・単位制への新たな取組などについて、続けていただきたい。 ・生徒の不安定な時期に寄り添った指導を続けていただきたい。情報共有について校内外での連携サポートはとても良い。 ・外国人が増加しており、日本語の分からない生徒への対応は大変であるが頑張ってほしい。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成：学校評議員 5名 (企業・大学・区役所・同窓会・PTA 各1名) ・評価時期：3月上旬